ときわ西蒲燕

令和５年７月
第 65 号
ときわ会西蒲・燕支部

新生「西蒲・燕支部」を目指して ～ ときわ創設 150 周年を契機に ～

支部長　　二平　芳信（61 年度・吉田小）

新潟西支部で「志の継承 未来へ」をテーマに講演された元ときわ会長の高橋雄一氏が，150 周年記念事業を通して明らかにすべきこととして「ときわ会という集まりは，会員を下敷きにしてその上に存在する組織ではない。会員の足元に存在し，ひとりひとりの会員の教師としての生き方と発展を支援する集まりである」とお話されたことを耳にし，目から鱗が落ちるような思いがした。

将来的に「管理職を目指す者」「教科指導のプロを目指す者」「特別支援教育のプロを目指す者」「学級経営のプロを目指す者」「社会教育に携わりたい者」等，会員の教師としての生き方・夢は様々である。ときわ会が決めたレールに会員を乗せ，「研修に参加させる」「実践発表をさせる」等，所謂，「やらせられる研修」に喜んで参加し，思い描く教師としての生き方・夢を実現できる会員は，ごく一部に過ぎない。また，今の会員は「やらせられる研修」を求めていない。

これからの時代は，「会員がやりたい研修」「会員の主体性とニーズを大切にした研修」を，本部と支部が一体となって構築し，会員それぞれが自分の生き方・夢を実現するための必要な力量を身に付ける支援をすることが，ときわ会に求められている。

６月の全県交流会で「今後ときわ会はどのように進化・深化していくべきか」をテーマに，意見交換を行った。その際に，ある若手会員から「対面の良さは分かるが，学校業務をたくさん抱えている状況下では，ときわの研修に参加することが難しい。場所を指定されないオンライン研修の継続や，時間を制限されない研修の導入を望む」との声が聞かれた。

また，ある会員からは，「子育て世代の女性会員は，研修に参加したいという気持ちがあっても，参加できないことが多い」との話を聞いた。

当支部では，このような若手会員，女性会員の思いに応えられる，場所と時間を制限されない動画視聴型研修や会員の主体性とニーズを大切にしたハイブリッド型マニアック研修（特別支援教育，ICT，社会教育等，様々な分野有り）等を実施している。加えて，管理職を目指す会員のための研修もこれまで通り実施し，会員の教師としての生き方・夢の実現に向けた支援に努めている。

課題（教育研究発表会での発表者の減少や動画作成者の確保等）は山積であるが，ときわ会創設 150 周年の節目の年に，会員の足元で温かい支援をする新生「西蒲・燕支部」を目指して，支部経営に努めたい。